

大阪市中央公会堂

13



「中之島のアイコン」を一つだけ選べば……

周囲の中之島の景観をぎゅっと引き締める、大阪で最も有名な赤レンガ建築。1918（大正7）年開館。市民に100年以上親しまれている理由は、ネオ・ルネッサンス様式建築の荘重さや華麗さだけでなく、公会堂設立の端緒を開いた若き実業家・岩本栄之助のキャラクターによるところが大きいと思われます。

「義侠の相場師と
呼ばれた
岩本栄之助」



岩本が
相場で大損失を出した時
当時の市長が寄付金の
返還を申し出たけど
彼はこれを固辞したそう……

「生みの親」に会える 地下1階展示室

株式仲買商の岩本栄之助は1909（明治42）年、渋沢栄一団長率いる渡米実業団に参加。ニューヨークのカーネギーホールで、「富豪が公共事業二財産ヲ投ジテ公衆ノ便宜ヲ謀リ又ハ慈善事業ニ能ク遺産ヲ分譲セル」さまに感激し、自らの方向性を決めました。具体的には人々が会い、議論し、演奏し歌い踊れる場＝公会堂を中之島に建設することです。父の遺産と私財を合わせて100万円（今なら50億円）という大金を大阪市に寄付。岡田信一郎の設計図をもとに、辰野金吾・片岡安の実施設計で工事が進められました。が、相場で膨大な損失を出して窮地に立たされた岩本は開館を待たずに1916（大正5）年、自ら39年の生涯を閉じました。地下1階の展示室では、100年を超える公会堂の歴史に触れられるほか、岩本ゆかりの品々を見ることができます。

CLOSE UP!

特別室は必見！
スタッフによるガイドツアーで

通常、自由に見学できるのは地下1階の展示室や、保存されている開館当初の椅子などに限られているので、館内で一番の見どころの特別室（かつての貴賓室）に入れるガイドツアー（30分・有料）はお薦め。室内には、大アーチを生かした写真の天井画や東面のステンドグラス（鳳凰と大阪の市章をデザイン）など、今では再現できない職人の技巧が施され、部屋そのものが芸術品と言われています。



お宝所蔵品や写真が見て飽きない展示室。館内を巡った後に寄っても、ここで学習して回るもよし



地下1階廊下において自由に座れる「保存椅子」には、座席の裏に帽子を掛ける金具があるものも。ジェントルマン仕様です



難波橋から公会堂に向かって走る大阪国際女子マラソンのランナーにもこの二神が微笑む



伝記でおなじみのあの人もこの人も

科学者アインシュタイン（1922年）や社会福祉活動家ヘレン・ケラー（1937年から55年まで3回）、宇宙飛行士ガガーリン（1962年）も中央公会堂で講演を行っています。世界的なクラシック音楽家やバレエ団の公演なども頻繁に行われていました。



世界の偉人たちの「格」にも遜色ない、1,100席を超える大集会室



開館当時、自動車はまだ超贅沢品だった。このひさしがあると雨のときに傘を差して出る人にも便利だし、人力車もここで止まりやすかっただろう。岩本栄之助グッジョブ！



MINI COLUMN 大改修の末、重要文化財に

1999年から保存・再生工事に着手。古い建築物に高い耐震性を与え蘇らせる「免震レトロフィット」が施され、より使いやすいようにスロープやエレベーターが新設されました。3年半がかりで完成し、2002年に国の重要文化財に指定されました。

大阪市中央公会堂

▶中之島 1-1-27
☎06-6208-2002
9:30～21:30（電話受付～20:00）
第4火曜、12/28～1/4休（祝日は開館、翌平日は休館）

MINI COLUMN 狭い狭い中洲エリアに 打たれた杭はなんと4千本！

公会堂が建つ場所は、堂島川・土佐堀川の両方が迫る、中之島の南北幅が最も狭いエリアです。地盤も軟弱だったので、約4,000本の杭が地中に打たれました。その1本が保存処理を施されて、地下1階に展示されています。こちらも必見。

